

ガーベラのコンテナを利用した隔離栽培による根腐病回避技術

球根コンテナに土壤消毒をした圃場の土を詰めて隔離栽培を行うことで、ガーベラ根腐病(*Phytophthora cryptogea*)を回避することができる。

農業研究センター 農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 佐渡 旭)

研究のねらい

県内のガーベラ生産において、根腐病の発生が問題となっている。病気が発生すると毎年、土壤消毒や株の更新が必要となり、生産者の経営を圧迫している。そこで、ガーベラ農家の生産安定を目的に、球根コンテナを用いた隔離栽培による土壤病害回避技術の確立を図る。

研究の成果

1. 防根透水シートを敷いた球根コンテナ (縦60cm×横40cm×高さ20cm) にクロルピクリン消毒をした圃場の土を詰めて (図1) 隔離栽培を行うことで、ガーベラ根腐病 (*Phytophthora cryptogea*) を回避することができる (表1、写真1)。
2. 球根コンテナを用いた隔離栽培では、8月から12月まで株当たり2.5~4.2本/月採花ができる (図2)。

普及上の留意点

1. 発病したハウス内にコンテナを設置して栽培を行う場合、ハウス内の土壤消毒を必ず実施する。
2. 根がコンテナから出てハウス内土壌に入り病害の発生源とならないよう、コンテナに防根透水シートを敷いて土を入れる。

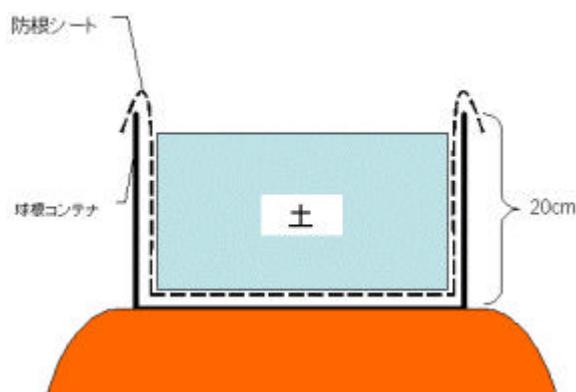


図1 コンテナ設置図

表1 ガーベラ根腐病発生状況 (根腐病罹病株累積発生率)

調査日	慣行土耕 (%)	コンテナ栽培 (%)
7月31日	0	0
8月28日	25	0
10月20日	100	0
11月20日	100	0

定植6月3日

5個のコンテナ(1コンテナ当たり4株栽植)と、土耕10株について調査。



写真1 ガーベラ根腐病の発病状況

土耕栽培は前年根腐病が発生した圃場に土壌消毒して栽培し、コンテナ栽培はそのハウス内の消毒した土壌をコンテナに入れて栽培。

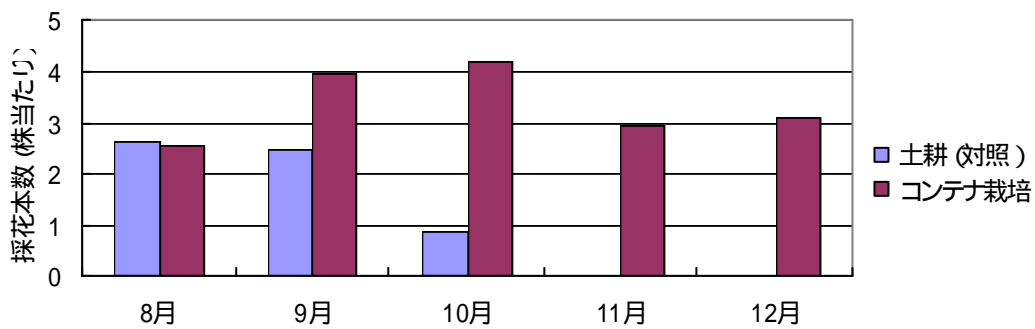


図2 土耕栽培とコンテナ栽培の違いによる採花本数の推移